

【概要】

薬物（医薬品）の適正使用において薬物相互作用はしばしば大きな問題となる。薬物の体内移行過程で起こる薬物動態学的相互作用は、1）薬物-薬物間の直接的反応によるもの、2）体内の機能性タンパク質（代謝酵素、血漿タンパク質、トランスポーターなど）が関与するもの、3）併用薬が引き起こす生理的環境変化を介するものに大別される。患者に不利益が生じないようにそれらを回避するためには、まず既知の薬物相互作用の発現機序を正しく理解することが重要である。

本講義では、3年次前期の「生物薬剤学」で学んだ基礎知識を基に分子レベルで薬物相互作用を理解し、その回避方法に関する基本的知識を修得する。さらに、消化管や脳、腎、肝に存在し最近その臨床的重要性が指摘されているトランスポーターの特性を学び、治療効果や副作用の発現におけるトランスポーターの関わりを理解する。

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による